書面審議

京都市はぐくみ推進審議会　令和２年度「親育ち促進部会」
議　　題

１ 親育ちに係る事業の実施状況について

資料１　親育ちに係る事業一覧
資料２　新型コロナウイルス感染症を踏まえた親育ちに係る事業の実施状況について

２ ほっこり子育てひろば プログラムの修正及び新規作成について

⑴ プログラム修正等作業チームについて

資料３　プログラム修正等作業チームの設置及び作業内容等について

⑵ 既存プログラムの修正内容について

資料４　既存プログラムの修正内容一覧

⑶ 新規作成プログラムの内容について

資料５　「関わる～『どうする？』スマホとの付き合い方～」
資料６　「子育てのこと　話しましょう」

＜参考資料＞

参考１　京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）について
参考２　「ほっこり子育てひろば」
参考２－２　令和元年度　ほっこり子育てひろば実施実績
参考２－３　令和元年度　ほっこり子育てひろばアンケート集計（妊娠期乳幼児期分）
参考２－４　令和元年度　ほっこり子育てひろばアンケート集計（学童期思春期分）
参考３　出張型「ほっこり子育てひろば」の取組について
参考４　親子の健康づくり講座・親子すこやか発達教室
参考５　青少年と乳幼児のふれあい事業（京都市児童館実施分）
参考５－２　青少年と乳幼児のふれあい事業（京都市立中学校実施分）
参考６　次世代はぐくみプロジェクト事業

資料1

親育ちに係る事業一覧

	保護者対象			青少年対象	
事業名	ほっこり子育てひろば	親子の健康づくり講座	親子すこやか教室	青少年と乳幼児のふれあい事業	次世代はぐくみプロジェクト事業
目的	子育ての思いや考え，悩みをテーマに沿って話し合うことを通じ，子育てについての不安解消や気づきを促すとともに，仲間づくりや親育ちの場につなげる。	講話や交流会等を通して，親の育児不安の軽減を図るとともに，子どもを安心して産み育てる環境づくりを推進し，もって地域全体の健康づくり及び子育ての活性化を図る。	グループワークや集団活動を通して継続的な支援を実施し，学びや体験の場を提供することで，乳幼児の健全な発育・発達の促進を図る。	中高生が乳幼児と関わることにより，家族としての役割や遊びの意義を学び，将来の子育てに対する不安を軽減することや，中高生の他者に対する関心や共感の能力を高め，乳幼児に対する愛情の感情を醸成し，中高生の健全育成を図る。	思春期の子どもたちに対して体験型思春期健康教育を実施することで，ライフデザインや育児等に係る知識の啓発や，妊産婦への思いやりのこころを育てるなど，社会全体で妊娠・出産・育児を支える一員としての意識を育む。
実施場所	○各区役所・支所子どもはぐくみ室 ○児童館 ○保育園（所） ○幼稚園，小学校，中学校， 総合支援学校 ○こどもみらい館　等	1　プレママ・パパ教室 ○各区役所・支所子どもはぐくみ室 2　親子で楽しむ健康教室 ○各区役所・支所子どもはぐくみ室 ○地域の集まりの場（児童館・つどいの広場等）	○各区役所・支所子どもはぐくみ室	○中学校，高等学校 ○児童館 ○保育園（所） ○幼稚園 ○助産施設　等	○中学校，高等学校， 総合支援学校　等
対象	妊娠期から思春期の子どもを持つ保護者	1　プレママ・パパ教室 妊婦及びその家族，乳幼児とその保護者 2　親子で楽しむ健康教室 就学までの乳幼児とその保護者	乳幼児健康診査等から把握した，子どもの発達や子育てに不安や悩みを抱える保護者とその子ども	1　中高生世代と赤ちゃんとの交流活動 中高生 2　幼児と触れ合う活動 京都市立中学校の生徒	中高生等（総合支援学校の生徒を含む）
進行	支援者 （妊娠期乳幼児期） 保健師，助産師，保育士， 幼稚園教諭，児童館職員等 （学童期思春期） ＰＴＡ役員等	各区役所・支所子どもはぐくみ室職員		1　中高生世代と赤ちゃんとの交流活動 保健師，助産師，保育士等 2　幼児と触れ合う活動 教師，保育士等	子どもはぐくみ室職員 大学生ボランティア　等
内容	少人数のグループに分かれた参加者が，子育てに関するテーマ（全１６種類）に基づき，子どもを育てる不安・悩み・喜び，子どもと共に親も育ち学ぶことの重要性，親としての心構えについて，グループでの作業や話し合い等を通じて交流する。	1　プレママ・パパ教室 交流会及び講話・講習（妊娠中の生活や産後のメンタルヘルス等）を行う。 2　親子で楽しむ健康教室 講義・講話・交流会を行う。	ペアレントプログラム（みんなはなまる）を用いたグループワーク及び交流を行い，集団活動を通した体験の場を提供する。	1　中高生世代と赤ちゃんとの交流活動 「中高生と赤ちゃんとのふれあい交流会」や「赤ちゃん講座」の実施，関連施設の見学等を行う。 2　幼児と触れ合う活動 幼児を学校へ招待，また保育園（所）や幼稚園等への訪問を通じて「幼児と触れ合う活動」を行う。	体験型思春期健康教育（講義や育児体験等）の実施や，関係機関と地域保健等とのネットワーク構築のための会議を年に数回実施している。

資料２

新型コロナウイルス感染症を踏まえた親育ちに係る事業の実施状況について

１　ほっこり子育てひろば

⑴　事業概要

子育ての思いや考え，悩みをテーマに沿って話し合うことを通じ，子育てについての不安解消や気付きを促すとともに，仲間づくりや親育ちの場につなげることを目的に，グループでの作業や話し合い等を通じて交流する。

⑵　事業実施における感染拡大防止対策等

【感染拡大防止対策】
・参加人数の制限（会場の収容人数の 50%以下）　・こまめな換気の実施
・手指及び物品消毒の徹底及びマスク着用の勧奨　・参加者同士の身体的距離の確保
・実施時間の短縮　・大声での発声や近距離での会話の自粛呼掛け　等
【今後の方向性】
・新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら，引き続き，感染拡大防止対策を徹底したうえで実施。
・対面での話し合いをできるだけ回避できるよう検討（配布資料の積極的な活用や，全体の場での意見交換等）

⑶　令和２年度実績（９月末時点）

実施回数：１４３回　　参加者数：１，１３６人

２　親子の健康づくり講座

⑴　事業概要

講話や交流会等を通して，親の育児不安の軽減を図るとともに，子どもを安心して産み育てる環境づくりを推進し，もって地域全体の健康づくり及び子育ての活性化を図る。

ア　プレママ・パパ教室

妊婦及びその家族，乳幼児とその保護者を対象に交流会や講話・講習を実施。

イ　親子で楽しむ健康教室

就学までの乳幼児とその保護者を対象に講義や講話，交流会を実施。

⑵　事業実施における感染拡大防止対策等

【感染拡大防止対策】
・参加人数の制限（会場の収容人数の 50%以下）　・こまめな換気の実施
・手指及び物品消毒の徹底及びマスク着用の勧奨　・参加者同士の身体的距離の確保
・参加者の検温　・原則事前予約制　等
【今後の方向性】
新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら，引き続き，感染拡大防止対策を徹底したうえで実施

⑶　令和２年度実績（１０月末時点）

ア　プレママ・パパ教室

実施回数：５７回　　参加組数：４３８組

イ　親子で楽しむ健康教室

- 所内実施型

  実施回数：４４回　　参加組数：１７５組

- 地域出張型

  実施回数：４７回　　参加組数：２６９組

3　親子すこやか教室（旧：親子すこやか発達教室）

⑴　事業概要

グループワークや集団活動を通して継続的な支援を実施し，学びや体験の場を提供することで，乳幼児の健全な発育・発達の促進を図る。

⑵　事業実施における感染拡大防止対策等

【感染拡大防止対策】
・参加人数の制限（会場の収容人数の 50%以下）　・こまめな換気の実施
・手指及び物品消毒の徹底及びマスク着用の勧奨　・参加者同士の身体的距離の確保
・参加者の検温　・参加親子に健康観察シートを配布し，参加日１週間前からの健康観察の依頼　等
【今後の方向性】
新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら，引き続き，感染拡大防止対策を徹底したうえで実施

⑶　令和２年度実績（１１月末時点）

実施回数：７３回　　参加組数：３０９組

4　青少年と乳幼児のふれあい事業

⑴　事業概要

中高生が乳幼児と関わることにより，家族としての役割や遊びの意義を学び，将来の子育てに対する不安を軽減することや，中高生の他者に対する関心や共感の能力を高め，乳幼児に対する愛情の感情を醸成し，中高生の健全育成を図る。

ア　中高生世代と赤ちゃんとの交流活動

将来の子育てに対する不安を軽減し，近い将来に妊娠・出産・育児等の親としての役割を担う可能性のある次世代の健全育成を図ることを目的に，中高生が赤ちゃんと関わる機会を提供する。

イ　幼児と触れ合う活動

中学校の技術・家庭科（家庭分野）において，幼児への関心を深め，関わり方を学習することを目的に，幼児を学校へ招待，また保育園や幼稚園等への訪問を通じて「幼児と触れ合う活動」を行う。

⑵　事業実施における感染拡大防止対策等

ア　中高生世代と赤ちゃんとの交流活動（旧：中高生と赤ちゃんとの交流事業）

【感染拡大防止対策】
・こめまな換気の実施　・手指及び物品消毒の徹底及びマスク着用の勧奨
・参加者同士の身体的距離の確保
・おもちゃの持参の促進，プラスティック製の洗うことができるおもちゃの活用
・直接子どもや妊産婦と触れ合う時間を極力短くし，見学や講話を中心としたプログラムに変更　等
【今後の方向性】
新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら，引き続き，感染拡大防止対策を徹底したうえで実施

イ　幼児と触れ合う活動

【感染拡大防止対策】
・こまめな換気の実施　・手指及び物品消毒の徹底及びマスク着用の勧奨
・参加者同士の身体的距離の確保　等
【今後の方向性】
・新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら，引き続き，感染拡大防止対策等を徹底したうえで実施。
・交流の有無については，生徒・園児・地域の実態等を踏まえて，交流先（園）と十分に協議を行う。また，協議の結果，実施が厳しいと判断された場合は，代替の学習活動を行う。
＜代替授業の例＞
・園児とのリモート，作品交換による交流　・視聴覚教材による幼児の観察
・ロールプレイング　等

⑶　令和２年度実績

ア　中高生世代と赤ちゃんとの交流活動

集計中（年度末報告のため）

イ　幼児と触れ合う活動（１２月末時点）

実施箇所：５箇所　　実施回数：６回　　参加者数：１，０８３人（生徒・幼児・引率含む）

５　次世代はぐくみプロジェクト事業

⑴　事業概要

思春期の子どもたちに対して，ライフデザインや育児等に係る知識の啓発や，妊産婦への思いやりのこころを育てるなど，社会全体で妊娠・出産・育児を支える一員としての意識を育むことを目的に，体験型思春期健康教室や思春期保健対策に係るネットワーク会議を実施する。

⑵　事業実施における感染拡大防止対策等

【感染拡大防止対策】

・参加人数の制限（会場の収容人数の 50%以下）　　・こまめな換気の実施

・手指及び物品消毒の徹底及びマスク着用の勧奨　　・参加者同士の身体的距離の確保

・原則事前協議　　等

【今後の方向性】

新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら，引き続き，感染拡大防止対策を徹底したうえで実施

⑶　令和２年度実績（９月末時点）

実施回数：０回

資料３

プログラム修正等作業チームの設置及び作業内容等について

１　修正等作業チーム会議の設置について

「子どもを共に育む『親支援』プログラム」策定から約１０年が経過したことを踏まえ，昨今のニーズ等に応じたプログラム内容にするため，一定の活動実績のある支援者をメンバーとする「修正等作業チーム」を設置。全世代共通編，学童期思春期編の内容の見直し及び新規プログラムテーマ開発についての検討・議論を行った（令和元年１０月１９日～令和２年２月１２日）。

２　作業内容

⑴　既存プログラムテーマの修正

現在の子育て家庭の状況等を踏まえた内容に修正。

⑵　新規プログラムテーマの作成

これまでの支援者からの意見や参加者の二―ズ等を踏まえ，以下のプログラムテーマを作成。

ア　テーマ名　*「関わる　～『どうする？』スマホとの付き合い方～」*

…情報通信機器（スマートフォン等）を話題として，エピソード等を通じて子育てについて話し合い，親子の関係性の構築や家庭内のルール作り等について気付きを得るプログラムを作成。

イ　テーマ名　*「子育てのこと　話しましょう」*

…保護者同士のつながりの構築や，子育てについての情報交換・悩みの共有等を目的として，テーマの枠にとらわれず，幅広く子育てについて話し合うことのできる汎用性の高いプログラムを作成。

３　これまでの経過について

時　期	会　議	実施内容
R1 年 10 月 19 日	第 1 回修正会議	修正会議の趣旨や，取組内容等を説明のうえ，会議での取組内容や，既存プログラムにおける修正点等について意見を聴取。
11 月 15 日	第 2 回修正会議	以下の 3 つのグループに分かれ，修正等の作業を実施。 ①　「既存プログラムの修正を行うグループ」 ②　「情報通信機器（スマホ等）の使い方を通じて子育てについて話し合うテーマのプログラムを作成するグループ」 ③　「幅広く子育てについて話し合う汎用性が高いテーマのプログラムを作成するグループ」
12 月 16 日 12 月 17 日	第 3 回修正会議	支援者の日程の都合上，2 日間に分けて会議を実施。引き続き，各グループに分かれ，修正等の作業を実施。
12 月 23 日	支援者交流会	全支援者を対象に交流会を実施し，修正会議について，簡単な説明・報告を行うとともに，修正等作業内容も含め，当事業の更なる充実のための意見等を聴取。
R2 年 2 月 12 日	第 4 回修正会議	各グループに分かれ，修正等の作業を実施し，最終的なプログラム案を作成。

資料４

既存テーマの修正内容一覧

	テーマ	意　見	修正後
全世代共通	いつくしむ	●読聞かせで使用する「いのちのまつり」は宗教的に感じるため，使いにくい。 ●子どもが生まれた時のことを思い出すところの挿絵について，一人親家庭への配慮がほしい。	⇒「いのちのまつり」以外の絵本の使用も可能であることを資料に追記。 ⇒一人親家庭に配慮した挿絵に変更（両親が生まれた時のことを思い出している絵から，生まれた時の絵のみに変更）。
	受けとめる	●資料に記載している「分かりあえない」時のエピソードについて，「分かり合える」時の会話も追記してもらいたい。 ●「分かりあえない」時のエピソードの例について，分かりやすいエピソードに変更したい。	⇒「分かりあえる」時の会話を追加。 ⇒別エピソードに差替え（「朝，子どもが母親に体操服が見当たらないと言い出す場面」に変更）。
	認める	●「いいところとしてとらえる」と「気になっているところの伝え方」の進行は逆の方がよい。 ●リフレーミング資料を活用したい。 ●進行の中で，付箋や画用紙を使ったKJ法を利用することが多い。 ●ワークシートの『「気になっているところ」を「いいところ」としてみましょう』の表現変更。	⇒入れ替える。ワークシートも合わせて変更する。 ⇒準備物にリフレーミング資料を追加。 ⇒準備物に（付箋）（画用紙）を追加。 ⇒『「気になっているところ」の見方を変えてみましょう』という表現に変更。
	つながる	●参加者に「地域貢献を強要している」と受け止められかねない。 ●地域の人がこれだけ子育てに関わっているということを知らない保護者が多い。 ●資料の「人づくり21世紀委員会」の時点修正。	⇒左記の点に注意する旨を留意点に追記 ⇒ねらいに「地域団体，学校も一緒になって皆さんの子育てを支えていることの気付きを得る」を追記。 ⇒「はぐくみネットワーク」に変更
学童期・思春期	歩む	●短時間（30　分）バージョンでは，多くの悩みを解決できないため，消化不良になることもある。 ●日頃の子どもへの声掛けについて，参加者同士の「セリフ交換」をするのが効果的である。	⇒短時間（30　分）バージョンのねらいに「親同士がつながることにねらいを絞る」を追記。 ⇒「セリフ交換」について進行例に追記。
	身につける	●資料の「今日からしっかり朝ごはん」の絵については，今の子育て環境にそぐわない。 ●「身につける」というテーマでは，参加すると「身につけることを強制される」ように感じてしまう。	⇒資料の朝ごはんの絵を削除。また，進行例の朝ごはんについての表記を削除。 ⇒「身につける」のサブテーマとして「～毎日の生活リズムを振り返ろう～」を追加（要調整）
	見守る	●付箋内容をまとめて仲間分けするのが難しい。	⇒「付箋の仲間分けができないグループについては，支援者が補助を行う」を留意点に追記。
	ふれあう	●「受験を控えた中3女子」のエピソードは，小学校での実施で使用できない。	⇒小学生バージョンのエピソードを追加（高学年男児がゲームに夢中になっているエピソード）
	はばたく	●アイスブレイク後すぐの話し合いのテーマ「あなたは子どもの頃，どんな夢を持っていましたか」で行き詰まる参加者がいる。	⇒アイスブレイクの自己紹介に「自分が小学生の時好きだった○○」を追加し，スムーズなワークに展開する。

資料５

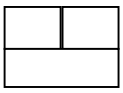
対象：小学生・中学生の子どもを持つ親　目安時間：90 分

関わる　～『どうする？』スマホとの付き合い方～

ねらい	● 顔を合わせて会話し関わり合い，日ごろから子どもと何でも話せる関係作りが大切であることに気付く。 ● 親の「スマホ」の使い方や姿勢が子どもに与える影響に気付く。
概　要	●「スマホ」等の情報機器に関するイメージや各家庭の現状を出し合い，交流する。 ● エピソードを聞いて，子どものスマホ利用をめぐる現状を知り，対応の必要性や具体的な方策を考える。 ●「スマホ」のトラブルや依存を防ぐために家庭でできることを考え，親自身の使い方を振り返る。 ● 参加者の「気づき」等を出し合い，今日の学習を振り返る。
ポイント	**【進め方の重点】** **● 本プログラムは「スマホ」講座ではない。子育ての中で，何でも話せる関係作りが大切である点を再認識してもらうことが大切で，そのための話題として「スマホ」について家族の中で大いに語り合って欲しい。そのための不安解消につながるよう，参加者全員が活発に意見を言えるように配慮する。** ● 本テーマは，専門知識がないと難しい話題とのイメージが強いが，「スマホ」等の情報機器がなくてはならない時代に生きる子どもたちを育てる上で，親も子育ての中に「スマホ」を話題にして欲しい。 アイスブレイクの時間には「スマホ」へのイメージを出し合い，気軽に話し合って良いテーマであると言う雰囲気を作って本題に進む。 ●「スマホ」に関するエピソードを聞いて，課題を見つけてその解決方法について，気軽に話し合いを進める。3つのエピソードを用意しているので，学校やPTA等の主催者側に取り上げるエピソードを選択してもらうのが望ましい。 ●「スマホ」を話題にし，家庭における日頃からの親子でのコミュニケーションの取り方についても話し合う。 ● 話し合いの深まりにより，子どもの成長を見守り，親自身が精神的にゆとりを持って子育てをすることの大切さにも気づいてもらう。 ● グループの話し合いや，それぞれの意見をできるだけ全体で共有する場面をもち，親同士身近で協力できる存在であると感じてもらうように進める。 ● プログラムの最後に，家庭での「スマホ」に関する約束事を資料として配付し，簡単な説明を行う。
準備物	● 筆記用具　● 付箋（2色×人数×3 枚以上）　● 画用紙（4 ツ切白色×グループ数×２枚） ● カラーペン（2 色以上×グループ数）　● 資料（エピソード：グループ数，「スマホ」に関する約束ごと：人数分）　● ワークシート　● アンケート

プログラム進行例

時間	展　開	ポイント・留意点
5 分	**支援者から挨拶と自己紹介** **今回のプログラムの趣旨説明** **3つの約束の確認**	● 和やかな明るい雰囲気になるように心掛ける。 ● ねらい・活動の流れ等について，ポイントを絞って説明する。 ● 参加者が安心して話し合いを進めるために，3つの約束があることを伝える。

10 分	**アイスブレイク** 我が家にある情報機器についてを含めて簡単な自己紹介を行う。 ◎ 「グループごとにお一人1分で自己紹介をしましょう。」 （自己紹介用カードの例） ①本人の名前  ②子どもの学年 ③家にある ICT 機器	● 支援者がまず自己紹介し，和やかな雰囲気を作ってから，参加者の自己紹介を行うと良い。 ● 自己紹介用のカードにメモしてもらう。 （名前・子どもの学年・我が家にある情報機器） ● インターネットにつながるゲーム機や家電等も含まれる点にも触れておく。本日の話し合いが気軽な雰囲気でできるようにする。
20 分	**「スマホ」へのイメージについての話し合い** ◎「皆さんは『スマホ』についてどのようなイメージをお持ちですか。プラス面を青色付箋にマイナス面だとお考えの点は赤色付箋にお書きください。」 「グループ内で意見交流してください。」 **「スマホ」等情報機器へのイメージについて出ている意見を支援者が紹介する** ◎ 全体共有をゆっくり行うのではなく，エピソードの話し合いが活発になるよう，「スマホ」について話し合う雰囲気づくりの機会とする。	● 1枚の付箋に1つのことを記入する。 例をあげて，説明する（付箋の記入例など）。 付箋の色の指示をする。 ● 付箋の貼付け具合を見て，グループ交流の指示をする。 ● 半分に仕切った画用紙を利用し，付箋を分けて並べると良い。 ● 困っている点だけでなく，良い点も紹介したい。
重点 40 分	**「エピソード」を聞いて話し合う** ◎ 「これから一つどの家庭でも起こるエピソードをお話します。スマホが登場するのですが，気になる点をワークシートにメモしてください。」 「皆さんのメモを基にグループで意見交流をしてください。」【話し合い①】 ◎ 「出てきた心配事をなくすための工夫について意見交流してください。」【話し合い②】 **『スマホ』時代の中で子育てしていく中，どのようなことが大切か話し合う** ◎「『スマホ』時代の中で子育てしていく中，どのようなことができるでしょうか。「ワークシート」に皆さんの思いをメモしてください。」 「ワークシートのメモを見ながら，意見交流をお願いします。」 ◎「全体交流をします。発表者の方，よろしくお願いします。」	● 使用するエピソードの題材については，事前に学校と相談し決めておく。（グループ数分準備） ● エピソードを聞いて気になる点をワークシートを利用しメモしてもらい，グループでの交流を活発にする。 ● 様子を見て1～2名に発表してもらう。 ● 画用紙，カラーペンを使って作業を進めても良い。 ● 結論へ導こうとするのではなく，次の話し合いへつなげる。全体交流は行わなくて良い。 ● エピソードから「どうしたらいいか」を交流したことを踏まえ，今後に何ができるかを自由に考えてもらう。ワークシートを活用し意見交流を活発にする。 ● 時間によって紹介してもらう人数やグループの数を調整する。
15 分	**活動の振り返り** ◎「活動を振り返ってみて分かったことや思ったことをワークシートに書きましょう。」 ◎「何人かに発表していただきたいと思います。」 ◎ 「『スマホ』を話題に意見交流をしていただきました。親子のコミュニケーションについても意見がたくさん出たようです。これからの時代を生きるための必需品であるからこそ，ご家庭でも進んで話題にしてみませんか。本日は，ご参加ありがとうございました。」 ◎「最後に資料『「スマホ」わが家の約束』を配りますので，自宅に帰られてから，目を通し，子たちと話されてはいかがでしょうか。」	● 時間によって発表する人数や人の選定方法を変える。 （各グループから万遍なく発表してもらえるように，最初から時間配分やバランスを考えて進めていく。） ● 資料を配布し，家庭で読んでもらうよう促す。時間があれば，持ち帰り用の資料を先に配布し，簡単に紹介するのも良い。 ● アンケートへの記入を実施し，書けた方から解散していただく。

関わる

～「どうする？」スマホとの付き合い方～

「スマホ」に対するイメージを書いてみましょう

エピソードを聞いて気になる所はどんなことですか？

気になる点を解決する工夫について

『スマホ』時代の中で子育てしていく中，どのようなことが大切でしょうか

今日の話し合いを振り返ってみましょう

【エピソード】参加者の状況等を考慮し使用するエピソードを選定
※：このテーマを申し込む場合　主催者の方で１つ選定いただく。
（地域の実状を踏まえていただくのが望ましいため）

エピソード１（小学校全学年保護者対象）　スマホのルール作り

小学 6 年生の京子さんは両親にねだってクリスマスプレゼントにスマホを買ってもらいました。
母「部屋にはもっていかない。夜９時以降は使わない。1 日 1 時間までよ。」
京子「はい，守ります。」
と，約束を決めたはずでした。
ところが，はじめのうちはおよそ守っていたものの，次第にルーズになっていきました。
京子「調べ学習があるから。」と言っては部屋に持ち込んで，9 時以降も使っているようです。母が心配になりスマホを見ようとすると，
京子「私のスマホ，勝手に見ないで！」とすごい剣幕で怒り出す始末。
そんなある日，久しぶりに家族そろって食事に出かけたのですが，京子さんは着信があるたびにスマホを開き，話しかけても上の空です。

エピソード２（小学校中学年以上がいる保護者対象）　スマホの家族利用の仕方

ある日の夕食後，家族みんなでリビングにいます。
小学校３年生の京太くんは，今日学校であった運動会の練習の話を聞いてほしくて一生懸命話をしています。
でも，お母さんはスマホの画面を見たままうなずくだけです。
お父さんもタブレットに夢中になっています。
お姉ちゃんもイヤホンで音楽を聴いています。
家族みんなで一緒にいるのに，『自分はひとりぼっち！』。京太くんはさみしい気持ちでいっぱいになり，おしゃべりが止まってしまいました。

エピソード３（小学校高学年又は中学生のいる保護者対象）　スマホの身近な危険

中学２年生の京子さんは大好きなアイドルがいます。
ライブに行きたくて申し込みをしましたが，抽選に外れてしまいました。
京子さんはくやしくて，チケットが手に入らなかったことを SNS に投稿してしまいました。
すると，「行けなくなったからチケットゆずってあげようか？欲しかったら直接メッセージを送って。」
相手も女の子で同い年のようなので，うれしくなって何も考えずメッセージを送ってしまいました。チケットをもらうために近くの公園で会う約束をしました。
公園に向かった京子さんを待っていたのは・・・。

資料６

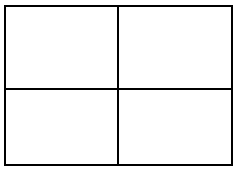
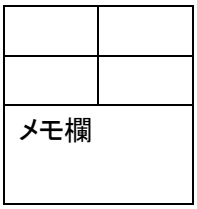
対象：子どもをもつ親　目安時間：３０分

子育てのこと　話しましょう

ねらい	●親同士がいろいろな情報交換を行い，顔見知りをつくる。 ●子育てする中での思い（不安等）を話したり聞いたりする。
概　要	●集団の中のさらに小さなグループの中で自己紹介をしながら，　知り合いをつくる。 ●自己紹介の中で，自分のことや子どもへの思い，子育てについてなどを話すことで，お互いの共通点を見つけあい，親同士の親近感を増す。 ●グループ内の他の保護者の子育てについての思いや不安を知る。 ●顔見知りをつくることは，不安を解消することにつながり，また，自分たち家族の生活をより豊かにすることに気付く。 ●参加者の感想を出し合い，「顔見知りをつくる」ことのよさを他の親に伝える大切さを知る。
ポイント	**［進め方の重点］** ●参加者全員が話せるように，３，４人のグループをつくる。 ●30分のプログラムなので，アイスブレイクを兼ねて自己紹介の時間を中心とする。 ●短時間で効率よく話ができるように，自己紹介をコピー用紙の枠内に書き，それを見せながら話してもらう。 ●自己紹介によって顔見知りをつくることが中心ではあるが，「子育て」について気になっていることがある親には話をしてもらう。 ●感想を発表してもらうことにより，参加をしてよかったという充実感を親に感じてもらう。
準備物	●筆記用具　●自己紹介用のコピー用紙（A4サイズ）　●アンケート用紙 ●マイク（人数が多い場合）

プログラム進行例

時間	展　開	ポイント・留意点
5分	**支援者から挨拶と自己紹介** **今回のプログラムの趣旨説明** **3つの約束の確認**	●和やかな明るい雰囲気になるように心掛ける。 ●ねらい・活動の流れ等について，ポイントを絞ってできるだけ手短に説明する。 ●参加者が安心して話し合いを進めるために，3つの約束を伝える。 ●自己紹介が中心ではあるが，子どものことで気になっていることがあれば，後半に話すことができることを伝えておく。

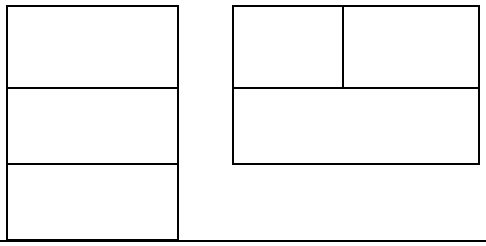
22 分	◎「これから，みなさん同士で自己紹介をしてもらいます。配られた紙のわくの中に，①から④のことを書いて，グループのほかの方に見せながら話してください。見てもらうので，できるだけ大きな字で書いてください。」 ◎「④には『子どものことで気になっていること』があれば，短い言葉で書いてください。例えば‥」 ◎「書く時間は，2分です。そのあと，お一人2分ずつぐらいで，④も含めて紙を見せながら自己紹介をしてください。話す順番は‥‥」 ①自分の名前　②子どもの学年と構成 ③ 例 ・好きなこと（趣味） ・好きな（おすすめの）場所 ・子どもとよく行く場所 ・よく買い物をする店 ・子どもの名前の由来 ④気になっていること 例　友達，給食，勉強，スマホ‥ ◎「自己紹介は終わりましたか。では，今から，『④気になっていること』をもう一度グループの方に詳しく話していってください。順番は，先程の方の右隣（左隣）の方から‥‥」 ◎「ありがとうございました。これで終わりますが， 今日参加されてどうでしたか。」	●アイスブレイクを兼ねる。 ●和やかな雰囲気で，参加者の自己紹介ができるようにする。 紙の例   ●書く時間，一人が話す時間を守ってもらうよう，リンかアラームを鳴らしてもよい。 ●人数が多く指示が聞こえにくい場合は，マイクを使用する。 ●時間短縮のため，話す順番は生まれ月が早い（遅い）方から右回り等，できるだけ指定する。 ●④についても，グループの全員が話せるように留意する。 ●固く考えずに，自由に楽しくグループで話し合えるようにする。 ●（時間があれば，）1～2人感想を聞く。 （挙手がない場合は指名する。）
3分	**活動の振り返りとアンケート記入** ◎「ありがとうございました。ほかの方がどんなことを思ったり心配したりしているか知っていただけましたね。話し足りないところもあったと思いますが，次回のほっこり子育てひろばにも参加して，お話をしてください。」 ◎「今後も，お知り合いを増やして，子どもが楽しく学校生活を送ることができるようにしていただくことを願っています。」 ◎「最後に資料『ひとことアドバイス』を配りますので自宅に帰ってからでも目を通してください。	●今後もほっこり子育てひろばに参加をしてもらうよう働きかける。 ●ほっこり子育てひろばを開催していない学校もあるので，できれば保護者自身から学校や PTA に働きかけて開催していただくよう促す。 ●資料**ひとことアドバイス**を配布し，家庭で読んでもらうよう促す。

対象：子どもをもつ親　目安時間：６０分

子育てのこと　話しましょう

ねらい	●親同士がいろいろな情報交換を行う。それをもとに，親同士が顔見知りとなり，新しい集団の中での不安を取り除く。 ●親同士の話し合いの中で，お互いの悩みを出し合い，悩みの解決の糸口を見い出す。
概　要	●自己紹介をしながら，知り合いをつくる。 ●自分のことや子どもへの思いなどを話すことで，お互いの共通点を見つけあい，親同士の親近感を増す。 ●顔見知りをつくることは，不安を解消することにつながり，また，自分たち家族の生活をより豊かにすることに気付く。 ●参加者の感想を出し合い，今日の学習を振り返り，「顔見知りをつくる」ことのよさを，他の親にも伝える大切さを知る。
ポイント	**[進め方の重点]** ●参加者全員が話せるように，３，４人のグループをつくる。 ●グループの中で，「聞きたいこと・気になっていること」を出し合いながら，自分の悩みを話せるようにする。 ●簡単に感想を発表してもらうことにより，参加をしてよかったという充実感を親に感じてもらう。
準備物	●筆記用具　●自己紹介用のA4コピー用紙（人数分）　●四つ切画用紙（グループ分） ●付箋（一色　4枚×人数　以上）　●アンケート用紙

プログラム進行例

時間	展　開	ポイント・留意点
5分	**支援者から** **挨拶と自己紹介** **今回のプログラムの趣旨説明** **3つの約束の確認**	●和やかな明るい雰囲気になるように心掛ける。 ●ねらい・活動の流れ等について，ポイントを絞ってできるだけ手短に説明する。 ●参加者が安心して話し合いを進めるために，3つの約束を伝える。
10分	**アイスブレイク** アイスブレイク集から適宜選択して実施 **自己紹介** ◎「これから，みなさん同士で自己紹介をしてもらいます。配られた紙のわくの中に，①から③のことを書いて，グループのほかの方に見せながら話してください。」 ◎「書く時間は，2分です。そのあと，お一人2分ずつ，見せながら自己紹介をしてください。話す順番は・・・」 ①　自分の名前 ②　お子様の学年と構成 ③　（以下の例から）	●和やかな雰囲気作りをする。 ●グループづくりにも使える。 グループの中で，話す順序を決めてもよい。最後の感想の発表者を決めておいてもよい。 ●和やかな雰囲気で，参加者の自己紹介ができるようにする。 自己紹介用の用紙 

	・好きなこと（趣味） ・好きな（おすすめの）場所 ・子どもとよく行く場所 ・よく買い物をする店 ・子どもの名前の由来 ・子どもで一番の困り	○見てもらうので，できるだけ大きな字で書いてください。 ●書く時間，一人が話す時間を守ってもらうよう，リンかアラームを鳴らすとよい。 ●話す順番は，生まれ月が早い（遅い）方から右回り等，できるだけ指定する。
10分	**説明の後，付箋書き** ◎「ここからは，グループでの話し合いをします。お一人お一人が，グループの中のみなさんに子育てのことで聞いてみたいことや気になっていることを付箋に書いてください。付箋はお一人3枚まで，○分間で書いてください。」 「書けたら，読みながら，大きな紙に貼っていって下さい。○分までに，全員が貼り終えてください。」	●次のフリートークで時間をとるため，付箋には大きめの字で簡単に書いてもらう。 ●軽く説明をしながら貼っていってもらう。
25分	**グループ内でのフリートーク** ◎「貼られた付箋を，内容ごとに仲間分けしてみましょう。」 ◎「お一人ずつ順番に，三つのうち一番聞いてみたいことや，聞いてほしいことから少し詳しく話していってください。他の方は，うちの場合はこうですとか，また聞いて感じたことなど，その都度話してください。1枚終われば，次の方に回してください。」 ◎「時間は・・分までですので，全員が1枚は話せるようにお願いします。順番は，先ほどと違って・・・」	●内容が同じもの，似ているものをまとめることにより，みんなが同じような悩みをもっていることを知ってもらう。 ●時間配分に注意して，一人5分程度は話ができるようにする。一人が長く話している場合，「次の方お話されましたか。」とやんわり次に回していく。 ●話が進まず悩んでいるグループには，「いったん保留して，後で他のグループに聞いてみましょう。」と次の話題に回してもらうようにする。 ●早く切り上げて，活動の振り返りに行くことも可能である。 ●ポイントになることを板書してもよい。 ●話して楽しかったという印象をもってもらう。
10分	**活動の振り返り（発表）とアンケート記入** ◎「ありがとうございました。今日参加されてどうでしたか。今日の感想を聞かせてください。」 ◎「アンケートの記入にご協力をよろしくお願いします。」 ◎「ありがとうございました。今後も，お知り合いを増やして，子どもが楽しく学校生活を送ることができるようにしていただくことを願っています。」 ◎「最後に**「ひとことアドバイス」**を配りますので，自宅に帰ってからでも目を通してみてください。」	●答えが出なかったグループがある場合，全体に聞き自分の経験を話してもらうが，ない場合は，支援者が話す。 ●本日は，講演ではなく他の人の話を聞く場で，答えが出ない場合もあること，親の悩みはみんなが通る道であることを知ってもらう。 ●グループごとに一人ずつ感想を発表してもらう。 ●挙手がない場合は，順番が次の方。 ●くじを用意しておいて，くじ引きを行い，当たった方に言ってもらうのもよい。 ●資料を配布し，家庭で読んでもらうよう促す。時間があれば，資料**「子育てのこと話しましょう」**を読み上げる。

資料

「子育てのこと　話しましょう」

子育ての極意はないけれど，少しでもヒントに！

ひとことアドバイス

あなただけじゃないよ！

ひょっとして，「わたしだけが」なんて思っていませんか。昔から世界中で，親なら誰しも似たような悩みをもってきました。もっと，肩の力を抜いても，大丈夫ですよ。

あなたの笑顔 子どもは大好き！

あなたが安心していると，子どもも安心します。
あなたがうれしいと，子どももうれしいのです。あなたの笑顔は，
ほんとにステキです。

子育ては 親育ち

誰かに聞いてもらおう！

悩んでいること，不安に思っていること，腹が立つことなど，人に聞いてもらうと楽になります。「こんな些細なこと」なんて思わずに，思い切ってだれかに話してみましょう。

顔見知りを増やそう

子どもたちに友達ができるかなと心配することはありませんか。親が顔見知りをつくって，たくさんの人とつながると，子育てが豊かになります。

参考１

京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）について

京都市では，これまで，子ども・若者に係る計画として，「京都市未来こどもはぐくみプラン」，「はばたけ未来へ！ 京都市ユースアクションプラン」及び「京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画」を推進してきました。

これまでの取組をより一層深め，妊娠前から子ども・若者まで「切れ目のない支援」を一体的・総合的に進めるため，本市の附属機関である「京都市はぐくみ推進審議会」における御審議，市民意見募集の結果を踏まえ，令和２年度～令和６年度を計画期間とする後継計画「京都市はぐくみプラン(京都市子ども・若者総合計画)」（以下「計画」という。）を策定しました。

１　計画の位置付けについて

以下の現行計画の一体化を大きな柱に，関連する法定計画等に位置付けるとともに，教育分野の計画や大綱とも整合を図ることで，京都市の子ども・若者に係る総合的な計画として策定するものです。

⑴　京都市未来こどもはぐくみプラン

本市の子育て支援施策の総合的な計画で，次世代育成支援対策推進法に基づく市町村行動計画に位置付けるもの。

⑵　はばたけ未来へ！ 京都市ユースアクションプラン

ユースサービス（青少年の自己成長の支援）を基本理念に，本市の青少年施策を網羅的に位置付けたもの。

⑶　京都市貧困家庭の子ども・青少年対策に関する実施計画

上記２計画を補足し，「子ども等の貧困」の観点から必要な施策を取りまとめたもの。

２　計画期間

令和２年度から令和６年度までの５年間

３　策定の基本理念

京都で育ち合い，学び合った子どもや若者が将来の展望を持って成長するとともに，京都に住み，働く人が幸せと希望を感じ，暮らし続けたいと思えるまちを実現します。

また，少子化などの課題にしなやかに対応するため，「妊娠前から子ども・若者までの切れ目ない支援」を更に推進し，結婚・出産・子育ての希望を持つすべての人の想いを叶え，京都ならではの市民力・地域力・文化力を結集した「市民の生き合う※力」を高めます。

※　各自が地域コミュニティを構成する一主体であるとの意識を持ちながら，他者との関わりの中で，支え合いと協力の精神に基づいて，お互いを認め，尊重し合い，共に生きること。

４　本計画における親育ちに係る事業の位置付けについて

本市においては，本計画の中に，親育ちに関する取組の推進等について，次のとおり示しています（裏面参照）。

＜本冊 「第Ⅱ部 具体的方策 － 第２章 施設の体系」より一部抜粋＞

１－（６）思春期保健

思春期は，心身の健康の基礎や自主性を形成し，将来への展望を抱き始める大切な時期です。

この時期を迎える若者に対し，将来を見据えたこころとからだの健康づくりに関する知識の習得や体験等の機会を提供することにより，子育てをはじめとした将来のライフデザインをより確かなものにするとともに，次世代を担う意識の醸成を図ります。

こころとからだの健康づくりと次世代をはぐくむ意識づくりの推進

思春期の若者が自身のこころとからだに向き合えるよう，関係機関と連携し，健康教育や普及啓発に取り組みます。

また，豊かな父性・母性を育むことができるよう，妊娠・出産等に関する体験等の機会を提供します。

【主な取組】

- 中学校・高等学校等における思春期健康教育の推進
- 大学生や青年期の若者等を対象とした妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発
- 乳幼児と中高生世代等との触れ合い体験の取組の推進

３－（２）親育ち促進

多くの子育て家庭が子育てに不安や悩みを抱える中で，地域のつながりの希薄化などにより人間関係が弱まり，子育て中の親が孤立しやすい状況になっていることから，子育て家庭が交流し，共に学び合い，相談し合う機会を提供し，親が成長し合える環境づくりを推進します。

また，子育て家庭が交流できる場の提供や多様なメディアを活用した子育て情報の発信などにより，子育ての不安や負担感を軽減するとともに，子育ての楽しさや素晴らしさ，子育てを通じた人と人とのつながりの大切さなどについて発信します。

ア 親として学び，育ち合う取組の推進

これから親となる世代が，親としての心構えや必要な知識等を，子どもの発育・発達段階に応じて学べる機会を提供するとともに，子育て家庭が気軽に集まり，自らの子育てについてお互いに語り，聞き合う中で，不安や悩みを解消できる場を身近な地域において提供します。

【主な取組】

- 乳幼児と中高生世代等との触れ合い体験の取組の推進
- 「子どもを共に育む「親支援」プログラム」の実践・推進

イ 子育ての楽しさ，素晴らしさを感じることができる環境づくり

家庭訪問等において助言や情報提供を行うとともに，子育て支援施設等の関係機関との連携を強化し，スマートフォンアプリなどの多様なメディアも活用しながら，子育て家庭に必要な情報を届け，子育ての楽しさ，素晴らしさについて発信します。

【主な取組】

- 新生児等訪問指導事業（こんにちは赤ちゃん事業）の実施
- 家庭訪問による継続的個別支援の充実
- 子育て支援機関による子育て相談事業の推進
- 地域や関係機関との協働による「子育て応援」に資する情報発信
- 京都はぐくみアプリ等の子育て支援情報発信事業の充実

＜参考＞

京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）

https://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000260990.html

※ 親育ちに係る記載内容は，本冊のＰ２３とＰ３７を御参照ください。

参考２

子どもを共に育む『親支援』プログラム「ほっこり子育てひろば」

１　事業概要

⑴　趣旨

「京都はぐくみ憲章」（「子どもを共に育む京都市民憲章」）の趣旨を踏まえ，子どもを育てる不安・悩み・喜び，子どもと共に親も育ち学ぶことの重要性，親としての心構えについて，グループでの作業や話し合い等を通じて交流することで，親同士や地域で子育てを支援する者がつながり，子育てを支えあい，見守り，共に子どもを育んでいくことを目指している。

⑵　概要

①　プログラムの作成

妊娠期から思春期の子どもを持つ保護者を対象とした，全１４テーマによるプログラム「ほっこり子育てひろば」を平成２２年３月に作成した。

平成２５年度中には，プログラムの活用促進及び改善のため一部改訂し，平成２８年度中には，ほぼ全ての保護者が参加する「就学時健康診断」や「入学前説明会」で活用できる短時間プログラムを新たに開発，また令和元年度中には，「子育てに関する情報交換」，「スマホ等情報通信機器を通じた子育て」をテーマとしたプログラムを新たに開発している。

②　「ほっこり子育てひろば」の実施

妊婦や保護者同士がプログラムに基づいて語り合う「ほっこり子育てひろば」を，平成２２年５月から実施している。

少人数のグループに分かれた参加者が，テーマに基づいてお互いの思いや考え，悩みを話し合うことを通して，子育てについての不安解消や気づきを促すとともに，仲間づくりや親育ちの場につなげていくことを目指している。

③　支援者の養成

学童期思春期のプログラムについては，「ほっこり子育てひろば」において参加者の「気付き」を促す進行役を担う支援者を養成するため，平成２２年６月に全５回の支援者養成講座を実施し，講座を修了した方を支援者として認定している。また，支援者向けに講座の円滑な進行などを目的としたスキルアップ講座を毎年度行っている。

なお，妊娠期乳幼児期のプログラムについては，専門性を要するため，保健師，助産師，保育士，幼稚園教諭，児童館職員等が支援者となる。

令和元年度「ほっこり 子育て ひろば」実施実績

参考２－２

【令和元年度】

テーマ	保育園(所)						幼稚園						小規模保育		児童館		つどいの広場		保健福祉センター子どもはぐくみ室		こどもみらい館		小学校		中学校		その他		総計	
	市営		民営		合計		市・国立		私立		合計																			
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
赤ちゃんのいる生活イメージ		32			2	32									1	5			26	339									29	376
離乳食	14	120	16	116	30	236									8	86	12	70	27	354	34	291							111	1,037
親子でいっしょに遊ぼう	44	423	115	796	159	1,219	2	73	24	223	26	296			236	1,612	44	241	79	1,513	2	16							546	4,897
自我の芽生えと生活習慣	8	68	4	40	12	108									18	112	5	31	52	402	12	90							99	743
子どもとのかかわり方	13	152	12	150	25	302	43	256	1	5	44	261			42	280	12	85											123	928
(全)いつくしむ	23	139	3	33	26	172	47	226	1	12	48	238			37	233	25	177	317	3,758	7	58	2	35					462	4,671
(全)受けとめる	4	45			4	45	19	116			19	116											5	64			1	108	29	333
(全)認める	3	42	1	17	4	59	28	143	1	10	29	153			5	27	1	3					5	106	1	14			45	362
(全)つながる	2	21	2	9	4	30	7	41			7	41			20	145	12	95					1	22					44	333
歩む																							27	1,222	1	15			27	1,222
身につける	1	18			1	18	1	5			1	5			1	4							2	30					5	57
見守る																							3	52	2	58			5	110
ふれあう																							1	15					1	15
はばたく																							1	18					1	18
合計	114	1,060	153	1,161	267	2,221	147	860	27	250	174	1,110			368	2,504	111	702	501	6,366	55	455	47	1,564	3	72	1	108	**1,527**	**15,102**

【平成30年度】

テーマ	保育園(所)						幼稚園						小規模保育		児童館		つどいの広場		保健福祉センター子どもはぐくみ室		こどもみらい館		小学校		中学校		その他		総計	
	市営		民営		合計		市・国立		私立		合計																			
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
赤ちゃんのいる生活イメージ		51	1	3	6	54									4	15			34	510									44	579
離乳食	14	104	24	166	38	270									12	109	10	63	21	185	29	320							110	947
親子でいっしょに遊ぼう	46	436	165	1,119	211	1,555			13	147	13	147			215	1,508	50	360	73	1,451	4	26							566	5,047
自我の芽生えと生活習慣	17	166	10	78	27	244	3	19			3	19			21	143	9	66	62	529	6	34							128	1,035
子どもとのかかわり方	13	165	22	194	35	359	57	423			57	423			44	282	14	98	29	441									179	1,603
(全)いつくしむ	46	373	10	89	56	462	28	164			28	164			36	253	13	118	308	3,741	7	74	5	107					453	4,919
(全)受けとめる	5	62	3	57	8	119	16	71	1	21	17	92			3	20							5	82			1	72	34	385
(全)認める	15	171	1	9	16	180	38	185			38	185			4	25	1	2					6	148					65	540
(全)つながる	5	45	7	77	12	122	8	34			8	34			22	163	9	41											51	360
歩む	5	55	1	23	6	78									3	97							30	1,211	1	15			40	1,401
身につける			1	18	1	18	2	9			2	9			6	127							2	46					11	200
見守る																							3	58	1	25			4	83
ふれあう																							2	31					2	31
はばたく																														
合計	171	1,628	245	1,833	416	3,461	152	905	14	168	166	1,073			370	2,742	106	748	527	6,857	46	454	53	1,683	2	40	1	72	**1,687**	**17,130**

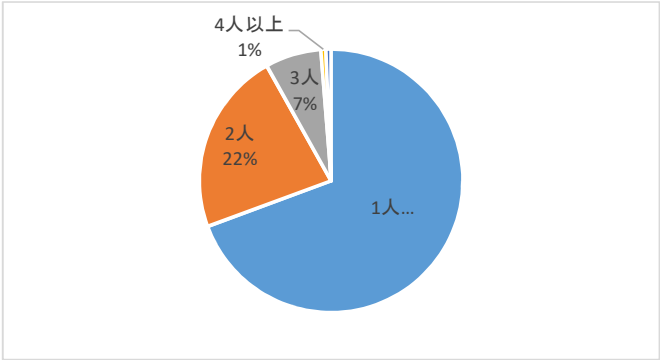
令和元年度「ほっこり子育てひろば」アンケート集計結果（妊娠期乳幼児期）　　参考2－3

テーマ別のアンケート回収数　　（表１）

テーマ名	回答数	構成比
赤ちゃんのいる生活イメージトレーニング	0	0.0%
離乳食	80	29.2%
親子でいっしょにあそぼう	41	15.0%
自我のめばえと生活習慣	23	8.4%
子どもとのかかわり方	32	11.7%
いつくしむ	76	27.7%
受けとめる	0	0.0%
認める	3	1.1%
つながる	19	6.9%
歩む	0	0.0%
身につける	0	0.0%
計	274	100.0%

Q１　あなたのお子さんについて教えてください。

グラフ1　子どもの人数

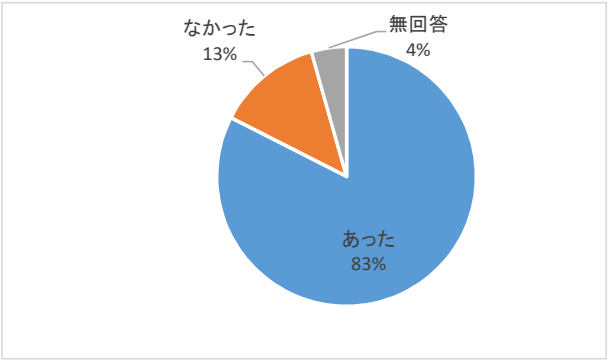


Q２　あなたは，子育てで悩んでいたことや不安に思っていたことがありましたか。

あった　・・・　82.5%

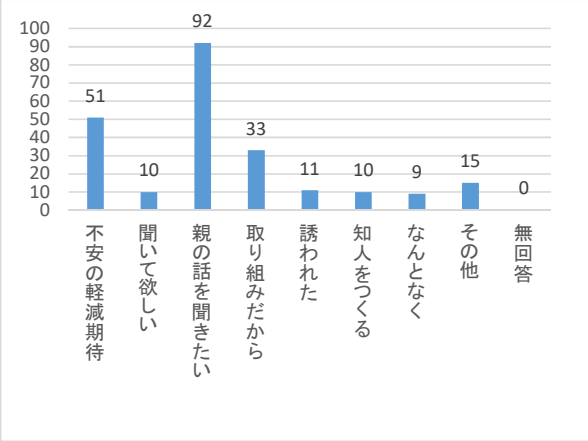
（自由記述で多かった内容）

- □　遊び方が分からない
- □　食事（離乳食の進め方，好き嫌い，食べてくれない，母乳が出ない，うまく飲ませられない）
- □　発達（言葉，できるようになるのか漠然と不安）
- □　夜泣き
- □　孤独に感じた，頼れる人がいなくて不安に思った
- □　子どもへの対応（イヤイヤ期，泣き止まない時，兄妹喧嘩）
- □　自分の体調，余裕がなくイライラしてしまう
- □　子どもの発熱や，発疹などの体調不良



Q３　このプログラムに参加された理由は何ですか（複数回答可）

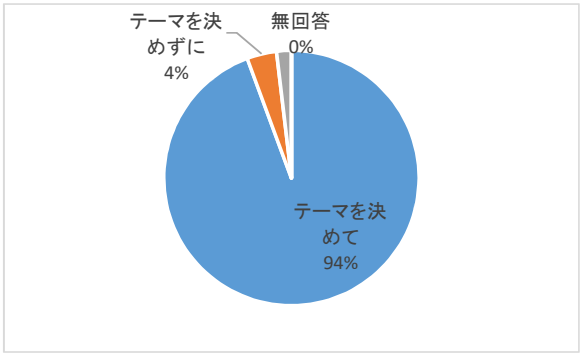
グラフ2　参加理由



- □　連続して受けられるから。離乳食について知りたかったから
- □　子どもとお出かけする場所が欲しかった
- □　児童館のクラブの取り組みだから
- □　前回参加したプログラムが良かったので

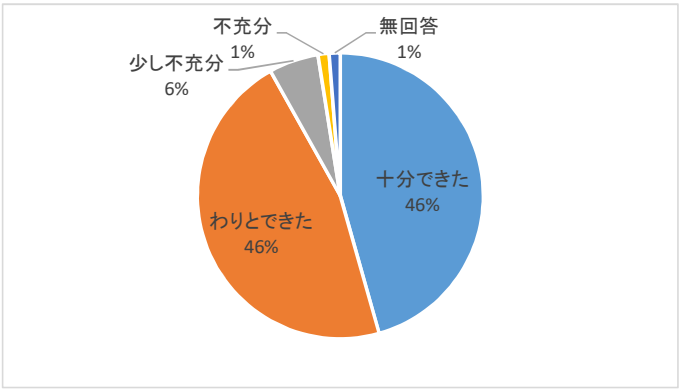
Q４　このプログラムは，参加者同士で一つのテーマについて話し合う方式でしたが，この方式についてどう思われましたか。

グラフ3　テーマ設定に対する感想



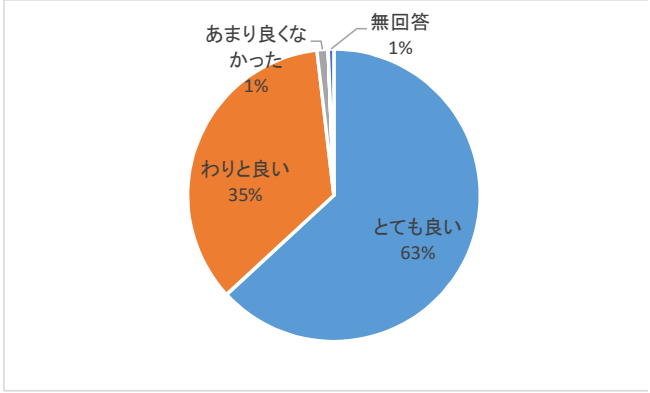
Q５　参加者同士で十分に話したり聴いたりできましたか。

グラフ4　参加者同士の活動



Q６　プログラムの内容，進め方の順序などについてはどのように思われましたか。

グラフ5　プログラム内容

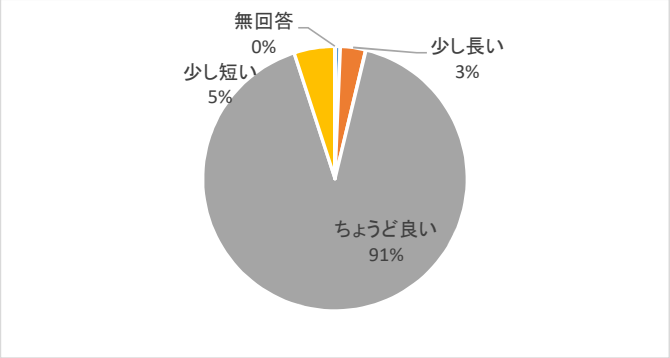


良くなかった理由

□子どもが途中で飽きてしまって，
他の人の話をきちんと聞けなかった

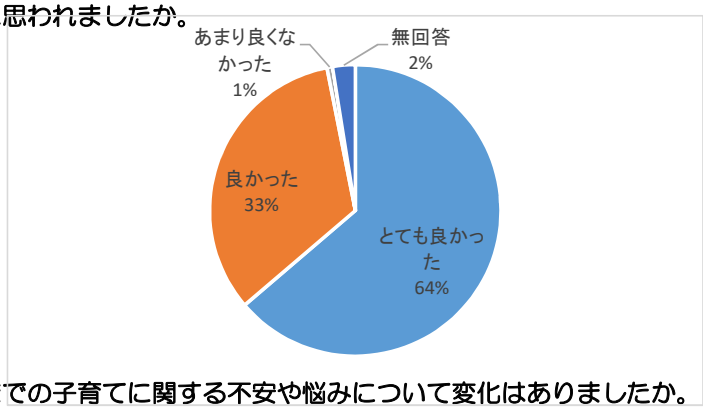
Q７　プログラムにかかった時間についてはどのように感じましたか。

グラフ6　プログラム時間



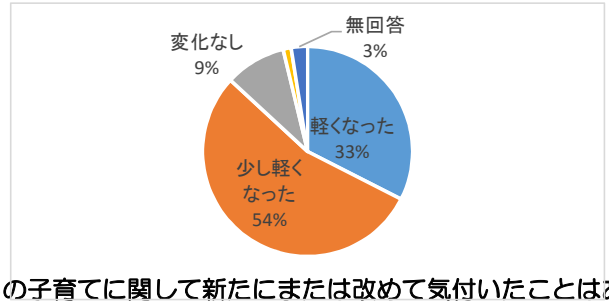
Q８　支援者の進め方についてはどのように思われましたか。

グラフ7　支援者の進め方



Q９　このプログラムを受けた結果，これまでの子育てに関する不安や悩みについて変化はありましたか。

グラフ8　不安や悩みの変化



Q１０　このプログラムに参加して，自らの子育てに関して新たにまたは改めて気付いたことはありましたか。

あった　・・・　76.9%

(自由記述で多かった内容)

□　全て完璧にしようと思わないで気楽に考えようと思った。一人だと考えすぎるけど，人に話すことで，たいしたことではないと分かった

□　他のお母さん方も同じような悩みを持っていることがわかり安心しました。そして，我が子の真の姿を大切にしようと改めて感じました

□　娘とのひと時ひと時の大切さに気付かされました

□　神経質ぎみだったが，「こうしなければならない」ということはほとんどないとわかった

□　子どもと過ごせる時間は有限だから，もっと“今”の子どもの話を聞いてあげたいと思った

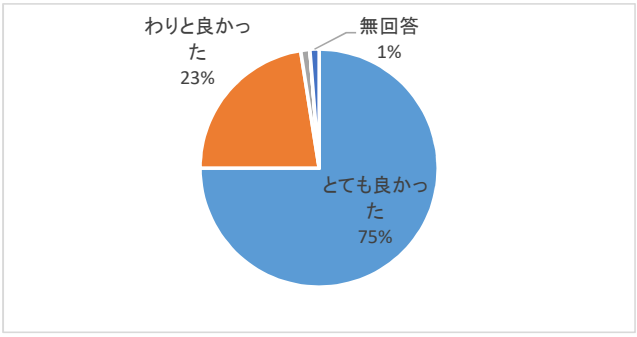
□　一人ではないなぁと思えました

□　生まれてきてくれたことに感謝をして接してきたいと改めて思った

□　焦らずゆっくり進めていこうと思いました

Q１１　参加してみて良かったと思われましたか。

グラフ9　参加者の満足度



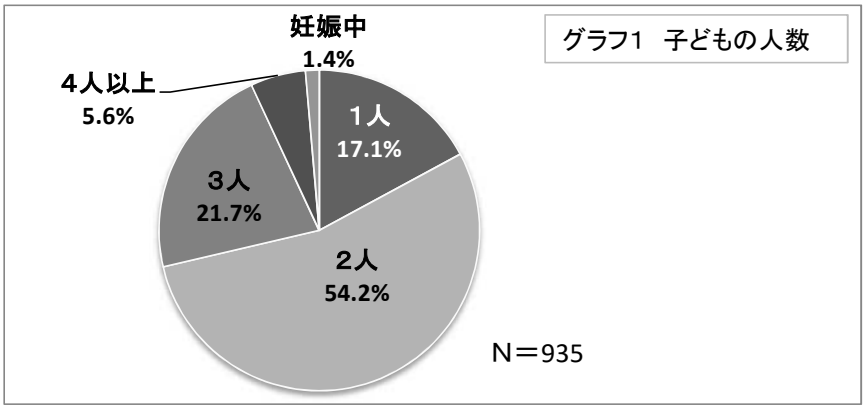
参考２－４

令和元年度「ほっこり子育てひろば」アンケート結果（学童期思春期分）

テーマ別のアンケート回収数　（表1）

テーマ名	回答数	構成比
いつくしむ	67	4.3%
受けとめる	162	10.3%
認める	124	7.9%
つながる	20	1.3%
歩む	1,039	66.1%
身につける	28	1.8%
見守る	99	6.3%
ふれあう	15	1.0%
はばたく	18	1.1%
合計	1,572	100.0%

Q1　あなたのお子さんについて教えてください



Q2　あなたは，子育てで悩んでいたことや不安に思っていたことがありましたか

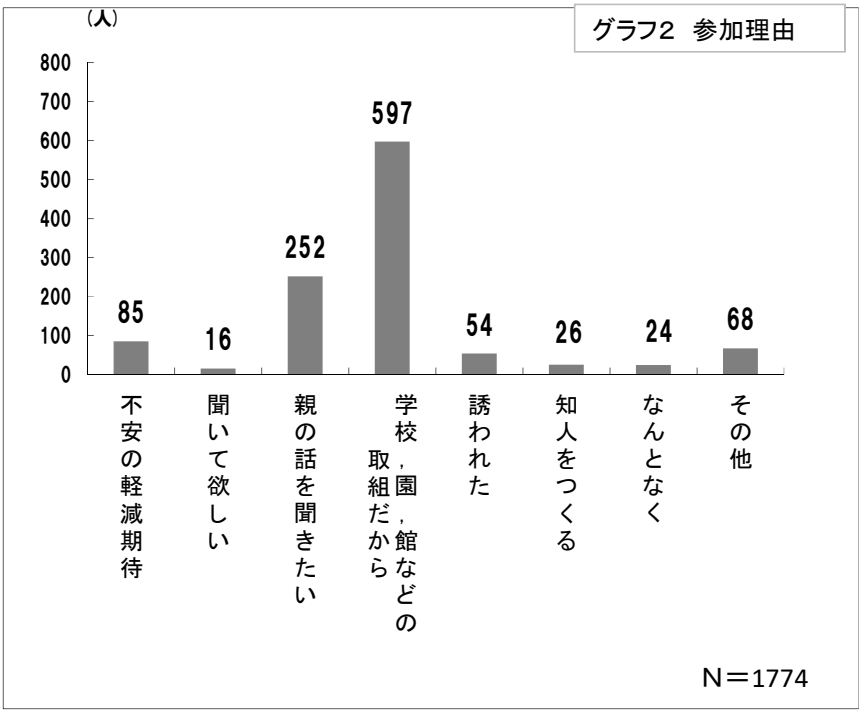
N＝1561

あった　・・・　73.6%

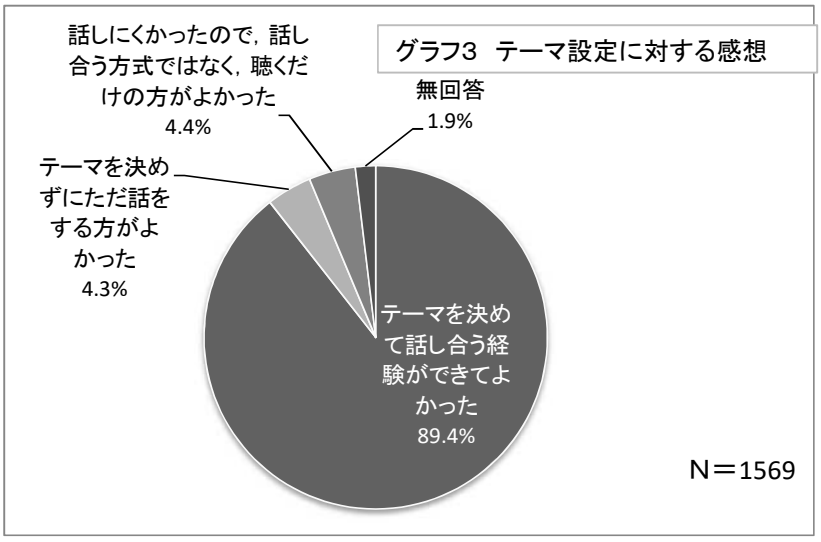
（自由記述で多かった内容）
【親自身のこと】
□　子どもとの接し方、距離感。
□　反抗期、思春期の子どもへの接し方。
□　子どもの感情の受け止め方。
□　生活に追われ、子どもに向き合う時間や余裕がない。
□　親同士の付き合い方。

【こども自身のこと】
□　性格について。
□　生活習慣やマナーについて。
□　兄弟や友達との接し方。
□　ゲーム依存。
□　勉強、宿題の進め方。
□　発達面の遅れ

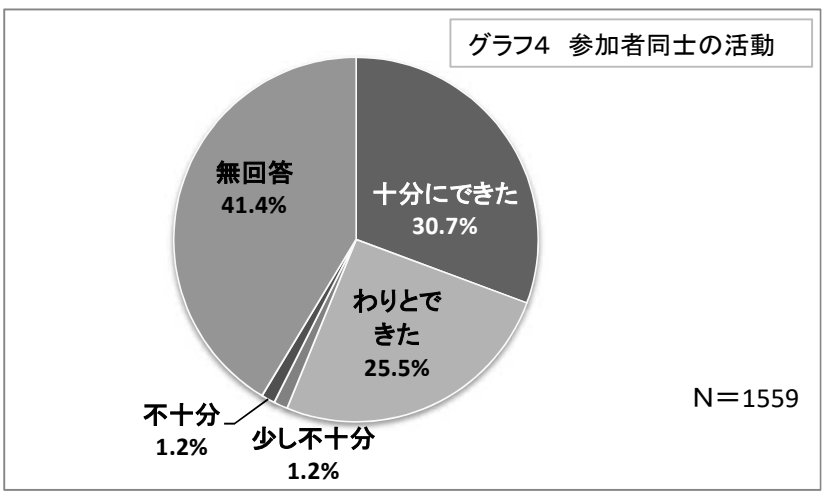
Q3　このプログラムに参加された理由は何ですか（複数回答可）



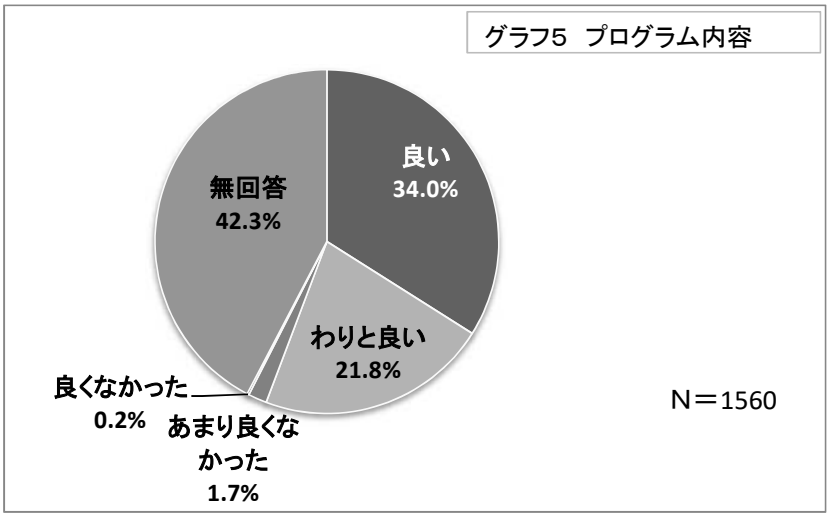
Q4　このプログラムは，参加者同士で一つのテーマについて話し合う方式でしたが，この方式についてどう思われましたか



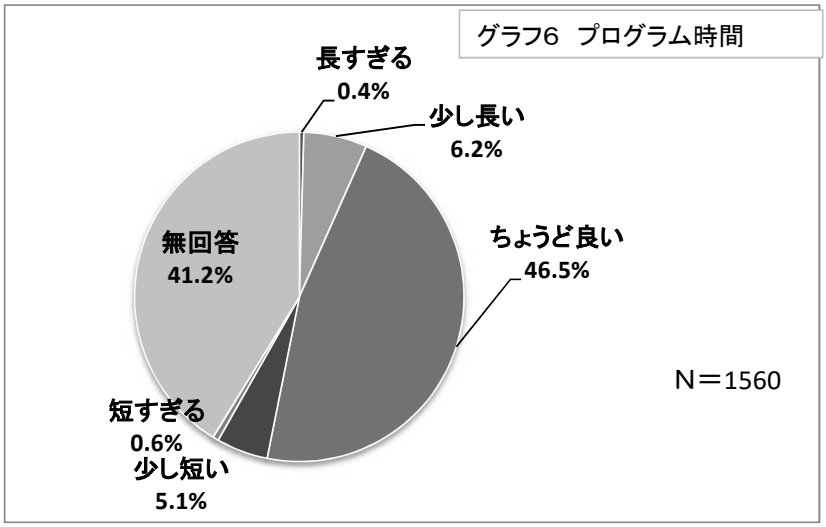
Q5　参加者同士で十分に聞いたり話したりできましたか



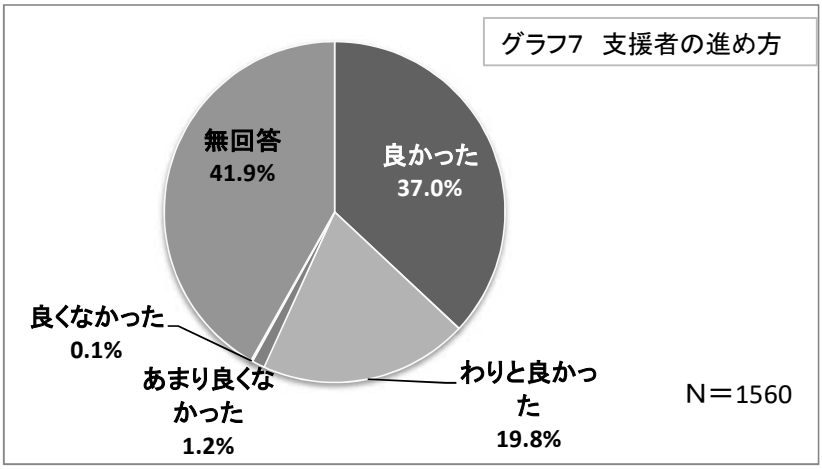
Q6　プログラムの内容，進め方の順序などについてはどのように思われましたか



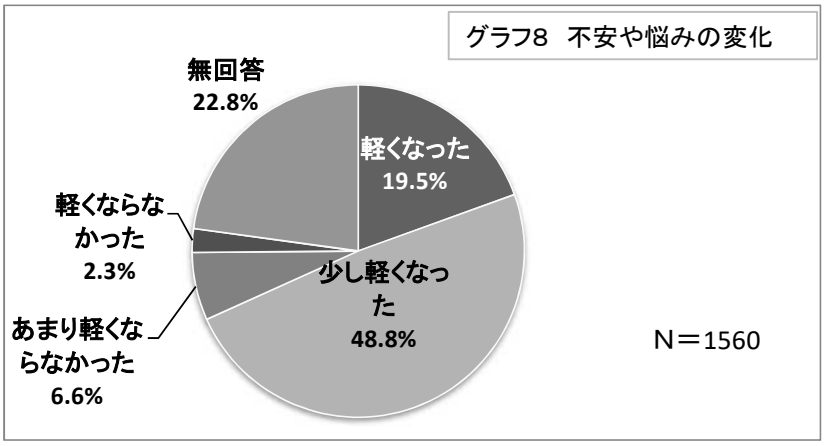
Q7　プログラムにかかった時間についてはどのように感じましたか



Q8　支援者の進め方についてはどのように思われましたか



Q9　このプログラムを受けた結果，これまでの子育てに関する不安や悩みについて変化はありましたか



Q10　このプログラムに参加して，自らの子育てに関して新たにまたは改めて気づいたことはありましたか

N＝1560

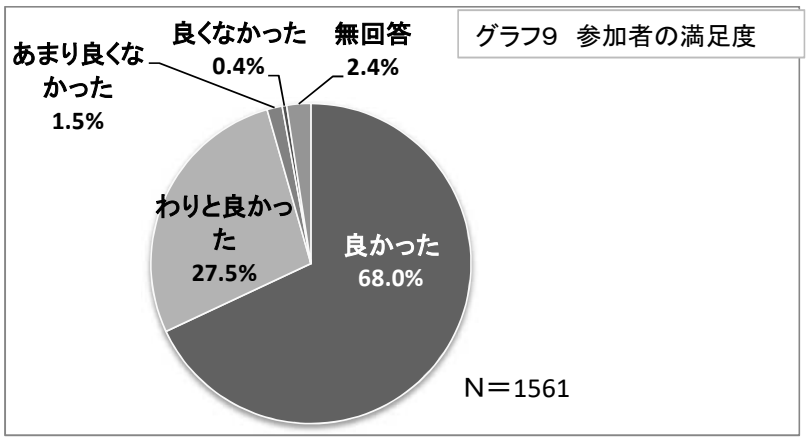
あった　・・・　70.4%

（自由記述で多かった内容）
【子どもとの関わり】
□　コミュニケーションやスキンシップが大切だと思った。
□　子どもとの時間を大切にしたいと思った。
□　もっと愛情を注ぎたいと思った。
□　見守ることの大切さが分かった。

【親自身のこと】
□　悩みを共感してもらえると安心した。
□　感情的になっていたことを反省した。
□　心にゆとりを持って行動しようと思った。
□　他の方の子育てを参考にしようと思った。

【その他】
□　子育ては工夫が必要だと思った。
□　ネット社会の影響について考えたい。
□　他の意見を聞き話し合うことで、気づくことも多い。

Q11　参加してみて良かったと思われましたか



参考３

出張型「ほっこり 子育て ひろば」の取組について

＜妊娠期乳幼児期部会＞

こどもみらい館において実施している「ほっこり子育てひろば」のモデル事業を，平成29年度から，ご協力いただける地域，施設に出向いても実施している。実施に当たっては，近隣の事業所からの見学を募り，内容等を「ほっこりニュース」やホームページで紹介等し，「ほっこり子育てひろば」の普及拡大と取組内容の充実を目指している。

30年度は1箇所，元年度においても1箇所で実施した。

元年度　（実績）

実施場所	室町児童館
日　　時	令和2年2月5日（水）10:30～11:30
実施テーマ	いつくしむ
参加人数	親15名，子15名　計30名 ＊室町児童館「0歳クラブ」登録者
内　　容	アイスブレイクの後，グループを2つに分けて意見交流を行った。 和やかな雰囲気で積極的に交流されていた。子どもに対し，「生まれてきてくれてありがとう」という思いを再認識されていた。 児童館職員からも「保護者の思いが聞けてよかった。」「今までほっこり子育てひろばを実施したことがなかったが，今後取り入れていきたい」という意見があった。
合同実施者名	室町児童館，京都市鶴山保育所

参考４

親子の健康づくり講座／親子すこやか教室

１　事業概要

出産や育児の経験がある育児期の方と，妊娠期の方の交流による新たな地域子育てコミュニティの再生を図るとともに，母子保健に関する知識の提供を行い，妊娠期から育児期における親の育児不安を軽減し，子どもを安心して生み育て，乳幼児の健全な発育・発達が促進される環境づくりを推進することを目的に実施しています。

２　親子の健康づくり講座

（１）プレママ・パパ教室

ア　対象

妊婦及びその家族（プレママ・パパ），乳幼児とその保護者

イ　実施内容

妊婦及びその家族（プレママ・パパ）及び乳児とその保護者との交流会及び講話・講習（妊娠中の生活，歯科保健，食事，産後のメンタルヘルス，赤ちゃんのいる暮らし等）

（２）親子で楽しむ健康教室

ア 対象

就学までの乳幼児とその保護者

イ 実施内容

就学までの乳幼児とその保護者に対する講義・講話・交流会を保健福祉センター子どもはぐくみ室や地域の集まりの場（児童館・つどいの広場等）で提供

〔講話・講習内容〕

生活リズムに関する指導，遊びに関する指導，食事（栄養）に関する指導，歯と口の健康に関する指導，パパとママの健康管理に関する指導，その他母子保健に関する指導を実施

３　親子すこやか教室

（１）　対象

- １歳６か月児健康診査等で把握した，子どもの発達や子育てに不安や悩みを感じ，心理的負担の強い保護者とその子
- 乳幼児健康診査において，要経過観察となった乳幼児とその保護者
- その他，保健福祉センター子どもはぐくみ室が必要と認めた者

（２）実施内容

乳幼児健康診査等から把握した，子どもの発達や子育てに不安や悩みを感じ，心理的負担の強い保護者とその子どもを対象に，ペアレントプログラム（みんなはなまる）を用いたグループワーク及び交流を行い，集団活動を通した体験の場を提供しながら継続的な支援を行うことで，保護者の育児不安等の心理的負担を軽減し，乳幼児の健全な発育・発達促進の支援を図る。

（３）備考

令和２年度から事業内容を見直し，ペアレントトレーニングの一部を用いたペアレントプログラム（みんなはなまる）を導入し，発達課題を抱える子どもに対する専門的なグループ支援として展開している。（令和２年度から教室の名称を「親子すこやか教室」に変更している。）

＜実績＞

		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
		実施回数	参加組数	実施回数	参加組数	実施回数	参加組数
プレママ・パパ教室		166 回	1,468 組	166 回	1,457 組	140 回	1,400 組
親子で楽しむ健康教室	所内実施型	93 回	1,020 組	111 回	1,117 組	97 回	1,505 組
	地域出張型	219 回	3,105 組	278 回	3,932 組	264 回	3,094 組
親子すこやか発達教室		155 回	944 組	156 回	943 組	141 回	838 組

参考５

「青少年と乳幼児のふれあい事業」実施状況（京都市児童館実施分）
～京都市児童館　「中高生と赤ちゃんとの交流事業」～

１　概要

家族規模の縮小や少子化の進行により，中・高校生世代が乳幼児と関わる機会が少なくなってきている状況の中で，本市は，平成１４年度に国のモデル都市の指定を受け，中高生が赤ちゃんとふれあい，関わる機会を提供する「年長児童を対象とした赤ちゃんとの交流事業」を開始しました。

その後，事業名を「中高生と赤ちゃんとの交流事業」に変更し，令和元年度は，指定する５０の児童館において実施することで，中・高校生世代の健全育成を図ってきました。

令和２年度には，これまで指定してきた５０児童館だけではなく，「中高生世代と赤ちゃんとの交流活動」として，全ての児童館において実施する事業に位置付けました。

２　主な取組

年間を通じた事業計画の中で，各館概ね５回程度，次のような取組を行っている。

⑴　児童館における「中高生と赤ちゃんとのふれあい交流会」の開催

児童館または中学校，高校において中高生と赤ちゃん・保護者の交流を行う事業の中心的な取組

⑵　「赤ちゃん講座」の実施

助産師などを講師に招き，赤ちゃん人形などを使った事前学習

⑶　関連イベントへの参加・ボランティア体験

中高生による「乳幼児のひろば」などの企画・運営や乳幼児親子を対象とした季節行事への中高生の参加

３　事業実績（令和元年度）

⑴　事業実施箇所　　５０箇所（裏面参照）

⑵　事業実施回数　　２５４回

⑶　総参加者数　　１１，１１８人
- 乳児　　２，４３１人
- 中高生　　５，６９６人
- その他　　２，９９１人

＜令和元年度　実施館一覧＞

行政区	施設名
北区	たかつかさ児童館
	京都市西賀茂児童館
	京都市上賀茂児童館
上京区	京都市室町児童館
	京都市上京児童館
左京区	京都市養正児童館
	村松児童館
	京都市修学院児童館
	京都市葵児童館
	京都市錦林児童館
	京都市北白川児童館
中京区	京都市じゅらく児童館
	同心児童館
	京都市御前児童館
東山区	京都市今熊野児童館
	京都市新道児童館
山科区	陵ヶ岡児童館
	京都市四ノ宮児童館
	大宅児童館
	山階南児童館
	京都市勧修児童館
下京区	京都市七条第三児童館
	京都市修徳児童館
南区	京都市洛陽児童館
	塔南の園児童館
	京都市中唐戸児童館
	南大内児童館

行政区	施設名
右京区	京都市御室児童館
	京都市嵯峨野児童館
	京都市嵯峨児童館
	京都市葛野児童館
	京都市山ノ内児童館
	京都市梅津北児童館
西京区	福西児童館
	京都市嵐山東児童館
	京都市境谷児童館
	桂坂児童館
	京都市桂川児童館
	京都市川岡東児童館
伏見区	京都市住吉児童館
	京都市深草児童館
	ももやま児童館
	うずらの里児童館
	京都市淀児童館
	はなぶさ児童館
	京都市羽束師児童館
	京都市醍醐中央児童館
	京都市向島南児童館
	京都市納所城之内児童館
	城南児童館

計50館

参考5－2

「青少年と乳幼児のふれあい事業」実施状況（京都市立中学校実施分）

京都市立中学校　技術･家庭科(家庭分野）令和元年度「幼児と触れ合う活動」実施状況

１．中学校　技術・家庭科（家庭分野）の授業について

○ 中学校学習指導要領　技術・家庭科（家庭分野）では，実践的・体験的な活動を通して「家族・家庭と子どもの成長」について学ぶこととされ，特に，幼児への関心を深め，関わり方を学習するにあたって「幼稚園や保育所等の幼児と直接触れ合う活動」を実施することが求められている。

新学習指導要領（今年度新入生より移行期間）においても「幼児を観察したり，一緒に遊んだりするなどの直接的な体験を通して，遊びの意義や幼児との関わり方について実感を伴って理解できるよう配慮する」と記載されている。

○ 京都市教育委員会では，学習指導要領（現行）に基づき独自の『指導計画』を定めているが，技術・家庭科（家庭分野）では，「幼児の生活と家族」についての学習時間を１４時間とし，そのうち，特に「幼児と触れ合う活動」については，事前・事後学習を含め以下の５時間を示している。

	指導内容	生徒の学習内容（学習活動）
①	幼児との触れ合い方を考えよう	幼児の心身の発達に合わせた接し方や遊びの工夫を考える
②	触れ合い活動の計画を立てよう	幼児との触れ合いについての自分の課題を設定し,対象の幼児の発達に合ったかかわり方を考えながら計画を立てる
③	幼児と触れ合おう	学習してきたことを基に，楽しく安全に幼児と触れ合う
④	触れ合い活動を振り返ろう	自分の課題に沿って振り返り,触れ合い活動の様子を整理する
⑤	幼児との関わり方の工夫を話し合おう	触れ合い活動で学んだことや，よりよい関わり方について，交流とまとめをする

○実施校　京都市立中学校 73 校中 69 校で実施（94.5 ％）

家庭分野の授業での触れ合う体験 66 校，そのほか，総合的な学習の時間や学校行事（体育大会・文化祭）等で交流を行った学校あり。

２．幼児と触れ合う活動の例

A 幼稚園・保育所等へ訪問する場合

① 施設を訪問し，元気に挨拶をする。

② グループに分かれて，自己紹介をする。

③ 室内で遊ぶ。

手作りメダルをプレゼント

④ グランドで遊ぶ。

⑤ 終わりの挨拶をする。

B 中学校へ招待する場合

① 校門で幼児を迎える。

② グループに分かれて，始めの挨拶･自己紹介をする。

③ 手作りのおもちゃや絵本で遊ぶ。

④ 全体で簡単なゲームをする。

リズム体操をする。

⑤ 中学生の歌と幼児の歌を聴きあう。

⑥ 終わりの挨拶をする。

⑦ 校門で幼児を見送る。

３．実施中学校協力幼稚園・保育所等

中学校	協力幼稚園・保育所等
加茂川	上賀茂児童館
西賀茂	旭ケ丘保育所，柊野保育園
旭丘	錦陵幼稚園
衣笠	衣笠子ども園，衣笠幼稚園
烏丸	心月保育園
上京	みつば幼稚園，中立保育園
嘉楽	翔鸞幼稚園，乾隆幼稚園
二条	待賢幼稚園
北野	妙林苑保育園
朱雀	カトリック聖母保育園
京都御池	おいけあした保育園
中京	円町児童館,御前児童館,壬生児童館,同心児童館，朱雀第三児童館，じゅらく児童館
松原	壬生寺保育園
西ノ京	月かげ保育園
西京附属	安井幼稚園
下京	光林保育園，修徳児童館
七条	七条幼稚園，西七条保育園
八条	唐橋児童館
九条	塔南の園児童館
洛南	洛陽児童館，中唐戸児童館
凌風	東和保育園
久世	京都久世児童館
岡崎	聖カタリナ幼稚園
高野	修学院児童館，養正児童館
下鴨	養正保育所，マクリン幼稚園
近衛	錦林児童館，北白川児童館，吉田児童館
修学院	一乗寺保育園，修学院保育所，聖水保育園，高野川保育園，ふたば幼稚園
洛北	明徳幼稚園
大原	京（みやこ）ベビーハウス大原 小野山わらんべ
花背	京(みやこ)ベビーハウス堰源
開晴	善立寺保育園
東山泉	東山幼稚園，今熊野児童館
山科	東野保育園，ももの木保育園
勧修	椥辻保育園
大宅	おおやけこども園
安祥寺	寺西幼稚園
音羽	永興小金塚子ども園
花山	鏡山保育所

中学校	協力幼稚園・保育所等
蜂ヶ岡	嵯峨野児童館
太秦	蜂ヶ岡保育園，蜂ヶ岡けやき保育園
嵯峨	まこと幼稚園，佛教大学付属幼稚園,嵯峨幼稚園，うぐいす保育園，若竹保育園，嵯峨児童館
四条	西院保育園
西京極	西京極幼稚園
梅津	梅ノ宮保育園
西院	西院保育園,妙覚保育園,清明保育園,西院幼稚園，春日幼稚園，向上社幼稚園
高雄	佛教大学付属幼稚園
双ケ丘	御室保育園，御室幼稚園，天授ヶ岡幼稚園，こども園ゆりかご
周山	弓削保育所
松尾	松尾幼稚園
桂川	川岡東児童館
樫原	樫原保育園，西嶺保育園，桂保育園,京都白百合保育園,京都三ノ宮幼稚園
大枝	桂坂保育園
洛西	さかいだに幼稚園，さふらん保育園
西陵	福西保育園
大原野	大原野こども園
深草	うずらの里児童館
藤森	竹田幼稚園，深草児童館
桃山	世光保育園，住吉保育園，住吉西保育園
伏見	伏見板橋幼稚園，板橋保育園，住吉保育園，住吉西保育園，みどり保育園
神川	たんぽぽ保育園，羽束師保育園，神川保育園，こが保育園
醍醐	端山の丘こども園
春日丘	辰巳保育所
小栗栖	はなぶさ保育園
栗陵	あけぼの保育園
桃陵	伏見南浜幼稚園
向島	さつき幼稚園
向島東	向島保育園
洛水	横大路保育園
大淀	淀白鳥保育園
桂	桂徳児童館

参考６

子どもはぐくみ室における「次世代はぐくみプロジェクト事業」

１　事業概要

学校等において中高生対象（総合支援学校の生徒を含む）の体験型思春期健康教育を実施し，ライフデザインや妊娠・出産・育児等に係る知識の啓発を行い，子どもたち一人ひとりが理解を深めることにより，自身の将来へ思いを馳せると共に，妊産婦への思いやりのこころを育てる等，社会全体で妊娠・出産・育児を支える一員としての意識を育んでいけるよう取組を進めています。

（１）思春期健康教育の更なる推進

市内の中学校，高等学校等の関係機関と連携し，子どもたち一人ひとりが，将来希望するライフデザインを実現できるよう，妊娠・出産等に関する体験型の思春期健康教育を大学生ボランティア等の協力も得ながら実施することで，「思春期における次世代を育む意識づくり」と，社会全体で妊娠・出産・育児を支える一員としての意識を育みます。

【取組内容】

○体験型思春期健康教育の実施
○普及啓発品等の作成
○大学生ボランティアの活動支援

（２）思春期保健対策ネットワークづくり

思春期の子ども達と関わりをもつ，学校保健や医療機関等の関係機関と地域保健等とが連携してネットワークを構築することで，思春期保健対策の一層の強化を図ります。

【取組内容】

○ネットワーク会議の開催（概ね１年に 1～２回）
構成団体：京都府医師会，京都産婦人科医会，京都市学校医会，京都府助産師会，京都市児童館学童連盟，看護系大学，学生ボランティア，教育委員会，子どもはぐくみ室，子ども家庭支援課

２　体験型思春期健康教育について

（１）健康教育プログラム（例）

対　　象　中学生
所要時間　２時間

時間	内容
１３：３０	講義「いのちの誕生」(30 分)
１４：００	体験学習（妊婦体験や赤ちゃん人形だっこ体験，育児体験等）(50 分)
１４：５０	講義「赤ちゃんのいる暮らし～ライフデザインを考えよう～」(20 分)
１５：１０	感想発表
１５：３０	終了

【参考】思春期健康教育を受けた生徒の感想

○　自分の母がどれほど苦労して自分を育ててくれたかを想像しました。一日中ゆっくり寝ることもできないのは本当につらいが，それでも子どものために幸せに生きてもらうために愛情を注ぐのは素敵だと感じました。

○　出産育児はとても大変なことなので，家族や周りの人たちと協力していくことが大切だと思いました。妊娠出産は女性しかできないけれど，育児は男性でもできるので，女性一人が抱え込まなくてもいいと思いました。

講　義

人形抱っこ体験

妊婦体験

育児体験

（２）実績

	平成２９年度	平成３０年度	令和元年度
中学校	３４回	３２回	３１回
高等学校	８回	６回	１０回
総合支援学校等	－	９回	７回
計	４２回	４７回	４８回

３　大学生ボランティアとは

市内に在住又は市内の学校に通学する大学生及び専門学校生で，子ども若者はぐくみ局が開催する事業説明会を受講した者　登録数：３４名（令和２年３月現在）

【活動内容】

○体験型思春期健康教育の支援

○思春期保健に関する普及啓発活動への協力

○思春期保健対策ネットワークづくりへの参画